

平成28年千葉市教育委員会会議
第12回定例会会議録

千葉市教育委員会

平成28年千葉市教育委員会会議第12回定例会会議録

日時 平成28年12月21日(水)

午後2時00分開会

午後3時00分閉会

場所 教 育 委 員 会 室

出席委員 委 員 長 中野 義澄
委 員 和田 麻理
委 員 千葉 雅昭
教 育 長 志村 修

出席職員 教 育 次 長 森 雅彦 教育センター所長 増澤 保明
教 育 総 務 部 長 矢澤 正浩 養護教育センター所長 植草 伸之
学 校 教 育 部 長 伊藤 裕志 生涯学習振興課長 増岡 忠
生 涯 学 習 部 長 大崎 賢一 文 化 財 課 長 志保澤 剛
総 務 課 長 國方 俊治 中 央 図 書 館 長 松尾 修一
参 事 兼 企 画 課 長 大橋美帆子 総務課人事・労務担当課長 武 大介
学 校 施 設 課 長 真田 賢一 生涯学習振興課科学都市戦略担当課長 西村 安正
学 事 課 長 大井 力 総 務 課 総 括 主 幹 山田 利雄
教 職 員 課 長 山下 敦史 学 事 課 長 補 佐 浅井 滋
県 費 移 譲 課 長 大野 治充 指 導 課 主 任 指 導 主 事 芳野 英博
指 導 課 長 福本 順 生涯学習振興課主査補 木村 健治
保 健 体 育 課 長 中村 宏

書 記 総 務 課 長 補 佐 三田日出美 総 務 課 主 事 鈴木 理沙
総 務 課 総 務 班 主 査 大須賀隆之

- 1 開会
中野委員長より開会を宣言
- 2 会議の成立
過半数の出席により会議成立
- 3 会議録署名人の指名
中野委員長より和田委員を指名
- 4 会期の決定
平成28年12月21日（1日間）ということで全委員異議なく決定
- 5 議事日程の決定
議事日程を全委員異議なく決定
- 6 会議録の承認
平成28年第10回定例会会議録を全委員異議なく承認
- 7 議事の概要
 - (1) 報告事項
報告事項(1) 平成28年第4回千葉市議会定例会について
國方総務課長より報告があった。
報告事項(2) 「プチ学校体感デー」の実施報告について
大橋企画課長より報告があった。
報告事項(3) 平成28年度研究報告会・研究大会について
福本指導課長より報告があった。
報告事項(4) 平成28年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果報告について
中村保健体育課長より報告があった。
報告事項(5) 科学部活性化事業について（第4回 サイエンスクラブアセンブリー・出張プログラミング講座）
西村生涯学習振興課科学都市戦略担当課長より報告があった。
 - (2) 議決事項
議案第43号 千葉市教育委員会公印規則の一部改正について
國方総務課長より説明があった後、審議。全委員異議なく、原案どおり可決した。
議案第44号 千葉市学校職員服務規程の一部改正について
武総務課人事・労務担当課長より説明があった後、審議。全委員異議なく、原案どおり可決した。
 - (3) 発言の要旨

報告事項(1)平成28年第4回千葉市議会定例会について

中野委員長 総務課長、ご説明をお願いします。

國方総務課長 報告事項(1)「平成28年第4回千葉市議会定例会について」、ご報告いたします。

第4回千葉市議会定例会でございますが、11月25日から12月14日までの会期で、議案質疑や教育未来委員会などが行われました。

次に、審議状況でございますが、4件の議案を提出いたしました。そのうち3件の議案につきましては、教育未来委員会の審査を経て、12月14日の本会議において可決されました。残る1件につきましては、初日の11月25日の本会議において可決されました。

次に、議案質疑等についてでございますが、議案質疑につきましては、通告者2人が教育委員会に関する質疑を行いました。代表質問は4会派から通告があり、全ての会派が教育委員会に関する質問を行いました。一般質問では26人の通告者のうち、14人が教育委員会に関する質問を行いました。主な質問の内容は記載のとおりでございます。

最後に、陳情の審査についてでございますが、陳情第4号、公民館への指定管理者制度の導入について(素案)に関する陳情につきましては採択されました。

平成28年第4回千葉市議会定例会に係る報告については以上でございますが、ご不明な点や、説明を要する点がございましたら事務局までお問い合わせください。

以上でございます。

中野委員長 それでは審議に移りますけれども、質問等を含めまして、何かございますでしょうか。特にこの件ではよろしいでしょうか。

報告事項(2)「プチ学校体感デー」の実施報告について

中野委員長 企画課長、説明をお願いいたします。

大橋企画課長 「プチ学校体感デー」の実施報告についてでございます。趣旨でございますが、より多くの市民に学校を身近に感じていただくために、小中学校の授業見学を行う「プチ学校体感デー」を開催しました。

2年前から「プチ」がついていない「学校体感デー」を年に1回開催してきましたが、3年目になりまして、少しやり方を変

えました。回数を増やして、そのかわり給食も食べたりして1日
がかりでやっていたイベント的なものを、学校の負担なども考え
まして、学校が授業公開を行っている日程にあわせ、実施しまし
た。地域、また地域以外の市内の様々なところから来ていただき、
授業を、大抵半日でございますが、見ていただくという形で開催
形態を変えさせていただきました。

開催は3校、誉田小、打瀬中、花見川第一小学校で開催しま
した。こちらは過去2年間開催していない区で開催するというこ
とと、誉田小学校は地域支援本部などを実施しているところ、打
瀬中学校は教科センター方式と申しまして、子どもたちが教室を
教科ごとに移動するような、ほかの中学校とは変わった形式で授
業展開しているような中学校。また、花見川第一小学校は、来年
花見川第一・第二が統合しまして第一小学校に集まりますので、
その保護者の方にも見ていただきたいという意味も含めまして
この3校を選ばせていただきました。

参加人数でございますが、延べ人数は29人、昨年も、1年
目、2年目も大体30名募集しましたので、参加いただいた人数
は大体1年目、2年目と同じです。

参加者ですが、男性、女性比率はそれぞれ半分ぐらいでござ
います。また、地域の方がほとんどだったのですが、中には、例
えば塾の先生など、学校の授業では最近どのようなことをやって
いるのかを見てみたくて来ましたといったような方ですとか、打
瀬は、やはりどのような中学校か、関心を持って来られた方もい
ました。

アンケート集計でございますが、主な意見はまとめたとお
りでございます。いずれも短い時間でありましたので、学校の負担
も少なく、またそれなりに授業を、学校の中に入って実際に子
どもたちの活動を見られたということで、満足度も高かったので、
来年は同じように、今回やっていない3つの区で開催したいと考
えています。

以上です。

中野委員長 では、審議に移りますが、質問等を含めまして何かございま
すでしょうか。

和田委員、お願いします。

和田委員 ご説明の中で、授業公開の日程にあわせてということがあり
ましたけれども、もともと保護者向けに授業参観としている1日

の中を、地域の方、市民の方にも開放したということですが、そうするとおっしゃったように余りハードルが高くないということになるかと思うので、来年度、残りの3区といわずに、もっと広い範囲でもできるのではないかなと思ってしまうのですが、そのあたりいかがでしょうか。

大橋企画課長 数を増やすこともできるかなとは考えています。ただ、校長先生などには最初に学校の見学の説明ですとか、保護者向けの公開とは別に時間をとっていただいているので、3校以上で行ってみる方向で検討したいと思います。

和田委員 できるだけそうしていただけたほうが、より地域に開かれた学校ということで認識いただけるのかなと思いました。

それともう一点。タイトルなのですけれども、「プチ学校体感デー」というのは、主催者側からすると、プチになっているのは、非常によくわかるのですが、実際に参加する市民の皆さんや、地域の方にとっては、プチでもプチじゃなくても、学校が体感できるということで、プチがなくて全部統一して「学校体感デー」としてもいいのかなと個人的に思いましたのでご検討いただければと思います。

大橋企画課長 ありがとうございます。

中野委員長 今までやっていたような、1日かけて、給食も食べてという、あれはもう、今後は一応やらないということでしょうか。

大橋企画課長 給食自体は給食を食べるような機会は別の事業もあり、1日ばかりになるとどうしてもその準備にかかる時間のロスがあります。また、募集しても今回と同程度の参加人数が給食を食べるとなると、そこまで回数を増やせないというのがありますので、今回と同じ30人程度で開催するのであれば、今回のようなやり方で、開催地域を広くする方法を考えております。今回は土曜日にやったのが保護者向けということで、一般の方も非常に参加しやすい、いい点になったかなと思っています。メリット、デメリットあると思うので、今回のやり方を来年もう一度やってみたいと考えています。

中野委員長 ありがとうございます。

報告事項(3) 平成28年度研究報告会・研究大会について

中野委員長 指導課長、お願いいたします。

福本指導課長 報告事項(3) 「平成28年度研究報告会・研究大会につい

て」、ご報告いたします。まず、研究指定校の目的ですが、今日的教育課題の解明並びに、千葉市学校教育の課題解明を図るため、指定された課題や、各学校が設定する研究主題の調査・研究に当たり、その成果をもって本市教育の向上に資するというところにあります。

本年度は、19校を指定して研究を推進してまいりました。各指定校には、学習指導要領の円滑な実施に向けて、道德教育の充実、学校医師間の連携の推進など、今日的な教育課題の解明や、学習指導の充実をテーマとし、2年間の研究を進めることとしております。指定校においては、確かな学力の育成を目指したわかる授業の推進や、豊かな心、健康な体を育む教育実践の成果が報告されております。

それでは、本年度報告会を実施した3校の取り組みについて、授業等の様子をご紹介したいと思います。まず、おゆみ野南中学校では、豊かな関わりの中で、技能を向上させ、できた喜びを実感できる保健体育学習の在り方を研究主題として、生徒がより主体的に運動に取り組むことができるようにするための指導方法について研究に取り組みました。11月24日に、その成果の報告がされました。当日は、柔道の授業を展開しましたが、教師と生徒、生徒同士の関わりによるコミュニケーションの活動の充実が図られており、生徒が運動の楽しさを感じ、技能の向上に向けて、進んで学習に取り組んでいる姿が見られました。

続いて、本町小学校では、12月2日に、自己を開き、豊かな人間性を育む学びの創造という研究主題のもと、教科としての道德の全面実施を見据え、全教育活動と関連させた道德教育について、研究報告会が行われました。児童の実態に即した教材を活用したり、指導方法を工夫したりしたことにより、児童が主体的に話し合い、自己の生き方について考えを深めることができました。また、道德と他の教科等とを関連させたことで、自己の活動での実践につながり、児童は自己の成長を実感することができたとの報告がありました。

続いて、12月9日に実施されました源小学校です。子どもがわかる・できるを実感できる学習指導の在り方という研究主題のもと、算数科において、学び合いに関するさまざまな取り組みをした研究の成果が報告されました。解き方がわからない児童が質問できる学び合いを目指す中で、問いに向かって主体的に学ん

だり、ともに学ぶことの楽しさを味わったりする児童の姿が多く見られました。また、児童の自己評価を生かし、わかる・できるを実感できる授業が展開されていました。

以上が本年度の報告会を実施した3校の取り組みや、授業などの様子です。

続きまして、その他のものとして、12月6日に蘇我中学校を会場として、千葉県青少年赤十字研究大会が開催されました。豊かな心を持ち、意欲的に学校生活に取り組む生徒の育成を研究主題として、青少年赤十字活動を活用した教育実践の成果が報告されました。災害時の身の回りの人の安全確保を学んだり、AED練習機を使った緊急時の心肺蘇生法を身に付けたりしたこと、自立心や自他の生命を尊重する心が生まれました。

研究報告会には、教員としての資質向上を目指した若年層の教員が多く参加していました。研究報告会に参加した初任者からは、子どもたちが主体的に学習に取り組むための目的意識の持たせ方が勉強になった。本時の狙いに迫る具体的な手立てがわかったなどという声も届いております。さらには、授業を展開した若年層教員の成長も実感することができました。

今後これら研究成果が広く市内の学校で共有できるように努めてまいります。

以上で本年度の研究報告会・研究大会についての報告を終わりにしたいと思います。

中野委員長 ありがとうございました。

それでは審議に移りますが、質問等を含めまして、何かございますでしょうか。和田委員お願いします。

和田委員 感想になりますが、私、おゆみ野南中学と源小学校に伺いました。おゆみ野南中学では、ご説明ありましたように女子の柔道の授業でした。武道が授業、教科に取り入れられるようになって初めて授業を拝見したのですが、私から見てもすごく、これが柔道の授業の完成形に近いようなものなのではないかなと思うくらいに、非常にリズム感もあって、子どもたちも楽しく取り組んでいるような感じが感じられました。

特に、もう皆さんご承知かと思いますが、準備体操がすばらしくて、ポップな音楽に乗って、柔道の技を取り入れた準備体操がうまくオリジナルできていまして、これはぜひ、市内のほかの中学校にも普及させていただけたらなと思いました。

それから、源小学校はそれほど規模の大きくない学校ですので、全クラスが授業公開をしていたのかなと思いますが、若手の先生も非常に熱心に取り組まれていて、子どもたちもそれに食らいついていく様子が、1年生から6年生まで全部に見られましたし、学校のチームワークのよさが感じられた1日でした。どちらの学校もすばらしい授業を見せていただきました、ありがとうございました。

あと、1点お聞きしたいのが、今回研究指定校が今19校あるということでしたが、今年度研究報告会は3校ということだったのですが、数が少なかったのはどういった原因があるのでしょうか。

福本指導課長 報告会については、必ず実施しなければいけないとはしておりませんが、学校によっては報告会という形ではなく、授業を実施して、指導主事を呼び、近隣の学校の先生たちに声をかけて、公開まではいかないまでも、授業展開を実施した学校があります。

なかなか、大々的に開催するのは難しいところもありますけれども、できるだけ多くの学校が公開という形でやっていけることが望ましいとは捉えております。

和田委員 わかりました、ありがとうございます。

中野委員長 このおゆみ野南中学校の柔道の授業、今、和田委員からすばらしいという話がありましたけれども、この先生は柔道の経験者でいらしたのでしょうかね。

中村保健体育課長 この指導をしたのは、女性の40代の教員ですが、柔道を専門にご自身も取り組んできた教員です。

中野委員長 そうしますと、そのような先生のいるところはいいのですけれども、そうでない学校の柔道というのはどういう形で進められているのでしょうか。

中村保健体育課長 柔道につきましては平成24年度より、正式に各学校で必修ということで取り扱われることになりましたので、年に複数回以上、研修会をもって、多くの教員に指導スキルが身につくように講習を行っているところです。

中野委員長 先生方に教えて、教わった先生方が指導すると。

中村保健体育課長 そうですね。中学校の柔道の指導者、つまり体育指導者に研修の機会を設けて、広げているところです。

中野委員長 やったことのない先生でも研修会を受けているうちに結構できるようになるのかもしれないね。

中村保健体育課長 この間の授業のようにはまだできないかもしれませんが、相当スキルが上がってきていて、特に指導の面で問題があるという話は、学校のほうからは今は上がってこないようになりました。

中野委員長 ありがとうございます。

報告事項(4) 平成28年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果報告について

中野委員長 保健体育課長、報告をお願いします。

中村保健体育課長 報告事項(4)「平成28年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果報告について」でございます。

この調査ですが、平成20年度から、児童・生徒の体力・運動能力や運動習慣、生活習慣等を把握し、体育・保健体育や健康等に関する指導の改善に役立てることを目的に実施されております国の悉皆調査です。

対象は小学校5年生と中学校2年生の児童・生徒全員となります。

調査は、実技に関する調査と質問紙調査が行われており、実技に関する調査は、握力、上体起こし、長座体前屈、反復横跳び、20mシャトルラン、50m走、立ち幅跳び、小学生はソフトボール投げ、中学生はハンドボール投げの8種目が実施されております。また、質問紙調査は、運動習慣や生活習慣に関する調査を質問紙にて回答する調査になっております。

まずは実技の結果でございます。全国と千葉市の平均値を種目ごとに掲載しています。ランクとは、全国47都道府県の順位に、本市の数値を対応させてみた場合の順位を示したものです。例えば、本市小学校5年生男子の握力の平均値16.41kgは、全国都道府県の順位では27位に相当する数値であるということです。全国の政令市を含め、市単位では現在平均値が公表されておきませんので、47都道府県の値に対応させてランクをつけてみたものです。

また、体力合計点とは、各種目を10点満点で点数化した8種目の合計の得点となっています。体力合計点を見てみますと、小学校5年生は全国47都道府県の値に対し、男子9位、女子10位に相当する記録でした。また、中学校2年生男子は全国7位、女子は全国4位に相当する記録でした。本市の小学校5年生と中学校2年生の体力・運動能力は、全国平均をいずれも上回って

ることがわかります。

種目ごとに見てみますと、小中学校の男女ともに、長座体前屈、50m走と立ち幅跳びが全国平均を大きく上回っており、特に小学校5年生男子の50m走、中学校2年生女子の長座体前屈は、全国1位に相当する好記録です。一方、小学校5年生は男女ともに握力、ソフトボール投げが、中学校2年生男子は、握力が全国平均を下回っていることがわかります。今後は、遊びや、体育・保健体育の授業の準備運動等で、握るとか投げる等の運動経験を増やすなど、継続的な取り組みも拡充してまいりたいと考えております。そのために、研修会等で本調査の結果を報告するとともに、各学校で実際に実施しやすいように、主体的な取り組み事例等を紹介し、さらに結果に対してより意識を持って臨むよう指導をしていきたいと考えています。

また、体力向上には運動量の確保がどうしても必要となります。現在、学校でのさらなる時間確保が大変難しくなっていることを踏まえ、放課後や土日の家庭での運動機会が増えるよう、学校だより等で保護者、地域にも働きかけをしていくよう、学校に呼びかけをしていきたいと思っております。

児童生徒の運動習慣や生活習慣に関する質問紙調査の結果でございます。

本市の小中学生男女に共通している傾向として、「運動が好き」、「運動は大切」、「体育・保健体育の授業は楽しい」との回答が全国平均を上回っています。また、小学生の「中学校で授業以外でも自主的に運動したい」、中学生の「中学卒業後、自主的に運動したい」との回答も全国平均を上回っています。今後も引き続き、体育・保健体育の学習や運動部活動等の充実を図ることで、「運動が好き」という児童・生徒の育成に努めたいと思っております。

また、「オリンピック・パラリンピックへの気持ち」については、小学生では全項目で、中学生でも多くの項目が全国平均を上回っており、関心の高さがうかがえます。ただ、昨年度と比較いたしますと、数値は下がっております。次年度もアスリートとの交流を一層充実させるとともに、中学校保健体育の体育理論の学習の充実等を通して、スポーツのすばらしさを認識させ、オリンピック・パラリンピックへの関心を一層高めてもらいたいと考えています。

本日報告させていただきました内容は、スポーツ庁が集計し、今月15日に発表したデータの概要です。今後、データをさらに読み込み、本市児童生徒の体力・運動能力等の向上に役立ててまいりたいと思います。

以上で報告を終わります。

中野委員長 それでは審議に移りますけれども、質問等を含めまして、何かございますでしょうか。

千葉委員 もしおわかりになればなんですけれども、1位になった種目がありますよね、それから平均よりも差があった種目も。1位になった種目というのは、特別何かして1位になったのか、それともたまたまそういう足の速い子どもたちがいて1位になったのかを、おわかりになればお聞きしたいなと思います。

中野委員長 はい、お願いします。

中村保健体育課長 1位になった種目もあるのですが、それがどうして1位になったかというのは、原因としてはつかめておりません。大体1位になる種目というのは、全国的な順位が毎年高いものとなっている種目で、毎年、学年と子どもは変わりますので、若干の動きはありますが、千葉市として伝統的によいということです。申しわけありません、原因については今一つわかりかねます。

千葉委員 ありがとうございます。

中野委員長 よろしいでしょうか。お願いします。

和田委員 まず数字のところ意見というか、質問ですけれども、全国平均を下回っていると考えられるのが、握力とソフトボール投げなのかなと思います。数字を見ると、本当に小数点以下の話で、となると恐らく、全国の子どもたちがこの平均のところにみんないるのだらうなという感じがしました。

ただ、ここ数年で全体的な平均値も下がってきているようなので、やはり今の子どもたちに必要なのはこの握力、握る力と投げる力なのかなと思いました。ですので、ご指導いただくにあたって、全国平均に比べて低いからということでは、数字を見ると大して低くないというのがわかってしまうので、そうではなくて、やはり今の子どもたちに必要な能力として、その握る力と投げる力が以前に比べると弱くなってきているので、そこを強化したいというふうにご指導いただけたらいいのかなと感じました。

それとあともう一点なのですが、質問紙調査、「オリンピック・パラリンピックへの気持ち」の部分で、ご説明では昨年より

も下がっているとお話がありましたが、「大会ボランティアをしてみたい」ということに関してもやはり下がってきていますか。
中村保健体育課長 ボランティアも含め、全体的に下がっています。全て下がっているという状況で間違いありません。

和田委員 「選手として出場してみたい」というのは、聞くほうがどうかと思うような質問で、中学校2年生の女子なんかは本当に現実がわかってきているなというような数字で、これは別としまして、やはり近くで、身近なところで大会がある中学生としては、このボランティアについてはもっと強い気持ちを持ってほしいなと思いました。2020年ってすごく先のように思いますけれども、やはり授業の中とか、それから学校の何かの行事の中で、オリンピック・パラリンピックを意識したようなことをしていくというのが大事なのかなというふうに思いましたので、よろしく願いいたします。

報告事項(5) 科学部活性化事業について（第4回 サイエンスクラブアSEMBリー・出張プログラミング講座）

中野委員長 科学都市戦略担当課長、ご説明をお願いいたします。

西村科学都市戦略担当課長 科学部活性化事業について2件報告をさせていただきます。

最初に、サイエンスクラブアSEMBリーですけれども、これは科学部交流発表会というべき内容のものでして、10月15日の土曜日に、市教育センターで開催しました。今回で4年目になります。今回、中学校6校、生徒数でいいますと80名を超える参加となりまして、過去最高の参加数だと思います。それから、保護者5名を含めて、科学館のボランティア、職員、関係者を含めると100名を超える規模となりました。

写真でございますけれども、まず午前中の発表の様子、前のスクリーンで発表する形のもの。それから、子どもたちが3人いますけれども、これは昼休みのもので、プログラミングで動く、走行のロボットですかね、そういったものに実際触れてみている様子。それから、午後に行った有吉中学校が提案しました、割り箸で橋を組み立てるといような活動の様子でございます。

それでは次、流れをご紹介いたします。午前中に開会式を行いまして、その後第1部として活動紹介。それからその後研究発表。その後科学館長キャラバンと呼んでいます。今回はボランティアさんからScratchというプログラミングに関する

概要、それから応用事例を紹介していただきました。

それから昼を挟んで、午後は「みんなで科学実験」というものを入れておりました、実際に実験または工作を紹介し合い、実際にやってみるといったような活動でございます。最後、閉校式の中で中学校長の講評、それから活動紹介を発表した学校には奨励賞、特にすぐれた活動を発表した打瀬中と有吉中の2校には優秀賞を渡しました。また、すぐれた研究をした個人、それからグループに対しましては、科学館の副館長より科学館賞を贈呈しております。

今回のアセンブリーの特色は2点あると思っております。1つ目は活動報告の中で、千葉市教育委員会のほうで開催している科学館内の行事を踏まえた内容のものが多く、非常に内容的にもプレゼンの、スライドの質の面でも非常に高いものがございました。2つ目は、科学館のボランティアさんによるプログラミングに関する紹介があったことです。これはこの後報告申し上げますけれども、出張プログラミング講座との関連をあえて狙っているものでございます。

終了時のアンケート結果をご紹介させていただきますと、「とても楽しかった」、「とてもためになった」という生徒が80%です。それから「楽しかった」、「ためになった」というものを含めると、いずれも95%と、「ためになった」は100%になってしまいますけれども、大多数の参加者が満足したことがうかがわれます。また、感想にも、今後の活動への意欲を示すような感想が多数見られております。自分たちの部活でもやってみたい、次回は自分たちも研究発表したいというようなことがたくさん書かれておりました。

このサイエンスクラブアセンブリーも4回目となりまして、この科学部活性化事業の中での意義とか位置づけというものが徐々にはっきりしてきたと思っております。アセンブリーに参加することで、ほかの学校の活動例を知ることになります。それによって刺激を受けて、うちの部活でも、または僕たちもということで、日常の活動を充実させる、意欲喚起になっているかなと思っております。

それに基づいて、私ども生涯学習振興課や、指導課で主催しております各種の科学部活性化に関する事業に参加している学校が多くなってきております。その活動をもとに報告すると、そ

れがまた表彰につながるというようなことで、このサイクルがだんだん確立してきていて、徐々にいろいろな部分で質的な向上も見られるようになってきたと思っております。

続きましてもう一つのほうの報告でございます。千葉市科学館のボランティア出張プログラミング講座というものですけれども、これは全中学校のコンピューター室にあるコンピューターにインストール済みのScratchというソフトに関するものです。

今年度新規のもので、今年につきましては試行ということで、この講座は10人から20人の参加者、2回開催、アセンブリーなどでできるだけ紹介してほしいということで条件を提示して、そういった学校を優先するというので応募しました。今回は科学部とコンピューター部で同時に希望をとりました結果、応募してきたのは3校で、その3校に今回実施してもらった次第です。

2回連続の講座になりますので、1回目はScratchというプログラムの基本的な操作、キャラクターに当たるものを動かすということ。それからいろいろな部分の音を出すということを扱いました。2回目はいろいろな数値の計算、それから音楽を取り入れることを中心に進めました。計6回の実施になりましたけれども、延べ参加生徒数としては60人です。毎回平均は10人です。顧問、科学館のボランティアは延べ45人、科学館の職員、これは館長、副館長、ボランティア担当の職員ですけれども、合わせて延べ13人ということですので、今回につきましては非常に手厚く指導することができたと思っております。

科学館がさまざまな場面に関わってきているということにお気づきかと思えますけれども、実は昨年度から2年間、中学校科学部活性化事業における千葉市科学館ボランティアの参画ということで、公益財団法人になります中谷医工計測技術振興財団というのがございまして、そちらから助成金をいただいております。その助成金をもとにして、科学部活性化事業のいろいろな部分で活用しております。

実施後の結果についてです。毎回様々な講座で同じように4段階でアンケートをとっております。これも60人、全員にアンケートをとったのですけれども、3つの学校の全参加者の平均ということで示しております。それで、3.9とか3.95というような数字なんですけれども、この4というのは「とてもそう思

った」というパターンでして、3というのは「そう思った」、2は「余りそう思わない」、1、「思わない」というようなパターンで集計したものでございます。そうしますと、ほぼ全員が「とても楽しく、とてもためになった」、「ぜひまたやりたい」ということになります。それから数値の上でいいますと、2回目のほうが数値が上昇しております。そういった意味でも好ましい結果になったと思っております。

今後、ほかの学校の科学部、または部員以外でも実施したいと考えております。今年度までにつきましては先ほどの助成金が、科学部活性化事業という、ある意味で縛りがございますので、科学部を中心にということで進めてきておりますけれども、それ以外の部員以外のことも、そういったものに対しても実施したく、回数についても1回、2回と選択させたり、または部員の少ない学校というのも当然ありますので、近隣の2校で合同の講座、そんなようなことも検討したいと思っております。

また、今年度は立ち上げということで、秋からの実施になってしまいましたけれども、次年度以降、夏休み前から実施すると、平日の放課後や、または夏休みを活用するということも考えられるなどと思っております。グラフから「わかりやすさ」の項目が若干、ほかのものに比べて低い傾向にございます。これは科学館ボランティアさんの共通理解や、指導方法の研修をさらに行っていただけよう、科学館と調整を進めていければと思っております。

以上でございます。

中野委員長 ありがとうございます。

それでは審議に移りますけれども、質問等を含めまして、何かございますでしょうか。

千葉委員、お願いします。

千葉委員 僕も何回か見学させていただいたんですけれども、非常に素晴らしい試みだと思いました。これはたまたま科学が好きな子どもたちが、部活でスポーツをやるように科学部に入って、サイエンスクラブアセンブリーで対外的に発表していますけれども、これを学校の中でも、発表の場として設けてもらって、もっと科学に興味ある子を同じ学校の中でも取り入れてというか、宣伝していくと、もっともっと部員数も増えていくのではないのかなと思ったんですけれども。そういう対外的な発表ではなくて、学校の

中での発表の機会がございますでしょうか。

中野委員長 お願いします。

西村科学都市戦略担当課長 今おっしゃるとおりでして、中には既に、このアセンブリーで使った資料はプレゼン資料ですので、それを新入部員の入部を促す集会等で見せたり、または文化祭の発表で行ったりというようなことを行っているようですので、徐々にではあるかと思えますけれども、校内でもほかの生徒に対して発表は行われているようでございます。

和田委員 今のことと関係するのですが、未来の科学者育成プログラムなどを見に行きますと、運動部に所属している子どもたちも参加しているので、やはり科学に興味があるというのは科学部の子だけではないということが非常によくわかりますが、日常の学校の部活動で、運動部と科学部を兼部するということは現実的に可能でしょうか。

西村科学都市戦略担当課長 多くの中学校で運動部と文化部というのを兼部というのはなかなか難しい状況だと思います。特に運動系の部活動ですと団体種目でございますので、部員が欠けてしまいますとチームのメンバーで困ってくるというようなこともあるので、なかなか難しい状況で、兼部を認めているという中学校は非常に限られていると思います。

和田委員 そうすると、その部活動に参加するところまではいかなくても、例えば昼休みのちょっとした時間とか空き時間などを利用して、科学に触れられるような場を、科学部が主体となつてつくるとか、そういったことで幅を広げていくという方法ならできるのかなというふうに感じました。

それとあと、質問ですが、先ほど財団について、科学部活性化という目的で助成金が出ているというお話でしたが、今回のこの事業以外にはどのようなものに使われているのでしょうか。

西村科学都市戦略担当課長 助成金いただいて、2年間で実は190万ほどになりますけれども、実際には例えば今回の場合でいいますと、講師の旅費に当たる交通費。あと、いろんなプログラミング講座ですとそれを応用したもの。例えば、先ほども出てきましたロボット。それからいろんな科学部の中で研究をしているという場合がありますので、貸し出せる機械、測定器具、そういったものに主に使わせていただいております。

和田委員 わかりました。ありがとうございます。

私も両方参加させていただいたのですが、特に出張プログラミング講座が初めてだったので、とても印象深く感じました。私が参加した回は、科学館のボランティアの方の指導が非常にすばらしく、学校の先生レベル以上かもしれないぐらいにすごく、実は1生徒としてさわらせていただきましたが、全くプログラミングに携わったことのない私も、最後は音楽をプログラミングできるところまでできたという、そういう達成感を感じてきました。

それを思いますと、先ほどもご説明にありましたけれども、科学部、コンピューター部の生徒ではなくても、一般の生徒でもぜひこのプログラムに参加できるようにして、ほかの部活のない日ですとか、そういったときをなるべく設定していただいて、ぜひ裾野を広げていただけたらいいなと感じました。

それと、プログラミング講座が終わった後で、科学部の顧問の先生が、今日の諸君を見ていて感じたことがあるとおっしゃられた中で、自分のところの学校の中でこうやってつくるだけではなくて、他校がつくったものと、それを一緒に発表をするような場を、対抗試合じゃないですけども、そういうのをやりたいとおっしゃっていました。その後どうなったかなと思っていましたが、先日その先生にお会いしたら、実は来年やることになりましたと。打瀬中と花園中でやるそうですが、自分たちでつくったプログラミングを持ち寄ってやるというようなのですが、そういったことが今後生まれてくると、今までは教育委員会で交流できる場を設定していたのが、自分たちで交流できる場をつかっていこうというような、自主的な動きが出てきたのだなと感じまして、すごくうれしくなりました。

運動部ですと練習試合などで他校との交流の機会が多いと思いますが、なかなか科学部はないと思いますので、そういったところもどんどんこれから進んでいくといいなと感じております。

本当にありがとうございました。

西村科学都市戦略担当課長 ありがとうございます。

議案第43号 千葉市教育委員会公印規則の一部改正について

中野委員長 総務課長、説明をお願いいたします。

國方総務課長 議案第43号「千葉市教育委員会公印規則の一部改正について」、説明いたします。

本議案は平成29年1月1日付、組織改正に伴う所要の改正

を行うため、規則の一部を改正しようとするものです。

改正の概要についてですが、各区役所、市民課、それから保険年金課が統合されまして、市民総合窓口課となる組織改正が、平成29年1月1日付であります。

本議案は、この組織改正に伴いまして、補助執行用公印の保管者、これをこれまでの区役所市民課長及び区役所市民課市民センター所長から、区役所市民総合窓口課長及び区役所市民総合窓口課市民センター所長に改めるものでございます。

施行年月日ですが、平成29年1月1日といたします。

以上でございます。

中野委員長 ありがとうございます。組織が変わることに伴うということですけども、何か質問等ございますでしょうか。特によろしいですか。

それでは、ご質問もないようですので、議決に移ります。

議案第43号「千葉市教育委員会公印規則の一部改正について」を原案どおり可決としたいと考えますが、いかがでしょうか。

<異議なし>

中野委員長 ご異議ないようですので、原案どおり可決とします。

議案第44号 千葉市学校職員服務規程の一部改正について

中野委員長 それでは人事・労務担当課長、説明をお願いいたします。

武人事・労務担当課長 議案第44号「千葉市学校職員服務規程の一部改正について」、ご説明をいたします。

まず、改正の趣旨でございますが、性的少数者、LGBTを受け入れる社会環境の構築に向けて、性別が同一である者とパートナーシップを形成した職員が利用できる休暇制度が新たに導入されることに伴いまして、学校職員が当該休暇を取得する際の手続を定めるため、様式の一部を改正することについて、千葉市教育委員会組織規則第8条第2号の規定に基づき、議決を求めるものです。

なお、パートナーシップを形成した職員が新たに利用できる休暇の種類は3種類、パートナー休暇、介護休暇及び短期介護休暇となっております。このパートナー休暇というのは現行の結婚休暇と同様の休暇となっております。

なお、学校職員のうち、県費負担教職員につきましては、現時点ではまだ権限移譲がなされておられませんので、労働条件は県

に合わせるということで影響されませんが、権限移譲後の平成29年4月以降に取得が可能となります。

具体的な内容につきましては、改正の概要にありますように、申請時、パートナーシップの裏づけとなる証明書類4点を添付させるものです。

施行年月日は平成29年1月1日とします。

説明は以上でございます。

中野委員長 ありがとうございます。

それでは、審議に移りますけれども、質問等含めまして何かございますでしょうか。

千葉市の制度がそうなったからということですね。よろしいでしょうか。

では、ご質問もないようですので、議決に移ります。

議案第44号「千葉市学校職員服務規程の一部改正について」を原案どおり可決したいと考えますけれども、いかがでしょうか。

<異議なし>

中野委員長 ご異議ないようですので、原案どおり可決いたします。

8 その他

(1) 千葉市未来の科学者育成プログラムについて、中野委員長から意見があった。これに関連し、次のとおり質疑応答等があった。

中野委員長 1つ希望なのですけれども、今年の夏に認知症疾患医療センターの、千葉大神経内科講師の平野先生が、先生方に、認知症についての講義を直接したと思いますが、やはり認知症はいろいろと問題になっています。認知症に対して理解してもらうということは、人に対する思いやりを育てる上で非常に大切なことかなと思っています。

今現在、地域包括ケア推進課と一緒に認知症サポーター養成講座をやっていると思いますが、そこには余り学校医が参加していませんので、できれば本当は学校医が参加したほうが望ましいと思います。実際は難しいのでしょうけれども。子どもたちにとっては、先生に直接言われるのが一番効果があると思います。そこでやはり、先生方に直接認知症についての理解を深めるような講義を専門家がしてくれますと、先生が子どもたちに認知症について直接説明してくれると、非常に効果が大きいと思います。

今年は余り受講する先生が多くなかったと聞きました。とても優秀な先生がわざわざ自分からやってくれるというのはすごく貴重だと思いますので、ぜひこれは参加していただきたいと思います。来年度も、夏休みを利用しての講義を平野講師にお願いしたいと思いますが、それにつきまして何か計画とかはありますでしょうか。

伊藤学校教育部長 委員長のご指摘はよくわかりましたので、検討させていただきます。多くの教職員が参加するというのが望ましいと思いますので。

中野委員長 そうですね。ぜひ。いろいろと問題になっている認知症ではありますけれども、ぜひ子どもたちに理解していただくと、自分の家でもおじいちゃん、おばあちゃんが認知症になっても嫌わずに、普通に接することができるようになり、表でちょっと迷うような人がいたときに、「どうしました」と一言、声をかけてもらいたいと思います。先生を通して普段から認知症について話を聞いていると、とてもいいと思いますので、ぜひよろしく願いします。

伊藤学校教育部長 わかりました。

(2) 第1回定例会は、事務局において日程を調整の上、開催日時を決定することとした。

9 閉会

中野委員長より閉会を宣言